

第66回 青雲塾 報告

<http://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/list.html>

青雲塾担当 松井繁幸（第23期）
西尾公一（第25期）

1. 日時 12月7日（土） 午前9時30分～（0時30分までに片付け・撤収完了）
2. 場所 大阪大学中之島センター 多目的室607
3. 会費 2,500円（・レクチャー 1,000円 資料代その他経費を含む。・茶話会 1,500円）
4. 講師 渡邊 浩崇先生（大阪大学COデザインセンター 特任准教授・博士（法学）

大学院法学研究科 招へい教員

国際政治学・外交史（宇宙政策、宇宙法）専攻（ ）

5. 演題 「宇宙政策を考えるー日本は宇宙先進国でありたいのか？ー」

6. 講師のプロフィール

1998年大阪大学法学部卒業（青雲会46期）。大阪大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（法学）。途中、米国ワシントンDCにあるジョージ・ワシントン大学国際関係エリオットスクール宇宙政策研究所に留学。2007年から大阪大学大学院法学研究科特任研究員、特任講師などを経て現職。2013年から2014年まで内閣府宇宙政策委員会臨時委員（調査分析部会）

研究内容・専門分野：国際政治学、外交史、宇宙政策、宇宙法。とくに日米両国の宇宙政策の歴史を研究。

7. 主な研究業績：

「冷戦とアポロ計画ー米国宇宙政策における競争と協力ー」（博士論文・大阪大学）、2010年9月。

「日本は宇宙先進国でありたいのか？」、宇宙航空研究開発機構（JAXA）ホームページ、2012年12月28日（http://www.jaxa.jp/article/special/space_exploration/watanabe_j.html）。

“Japan’s Space Strategy: Diplomatic and Security Challenges,” in Eligar Sadeh, ed., *Space Strategy in the 21st Century: Theory and Policy* (Taylor and Francis, Routledge, 2013), pp. 278-302.

“Japan’s Participation in the U.S. Space Shuttle Program: Achievements and Lessons in Space Policy,” *Osaka University Law Review*, Number 63, February 2016, pp. 33-52.

「日本の宇宙政策の歴史と現状ー自主路線と国際協力ー」、『国際問題』（焦点：宇宙の国際政治）、No. 684、2019年9月、34-43頁。

8. 講師からひと言

日本は宇宙先進国でありたいのか？現在、日本はこの問いに改めて答えるべき時を迎えています。世界では、既存の宇宙関連企業に加えて、新興企業が宇宙の研究開発利用において大きな役割を果たす中、日本は米国が構想する月近傍有人拠点や国際協力による月着陸探査活動に積極的に参加しようとしています。宇宙政策とは何か？日本の宇宙政策は現在どのような状況なのか？今から50年前に人類初の有人月面着陸を実現した「アポロ計画」とは？そして宇宙政策の意義や論点について、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

<講演を終えて>

先週末の青雲塾では、ありがとうございました。皆様と大変有意義な時間を過ごさせていただきました。青雲会の益々のご盛会と、皆様の益々のご多幸をお祈り申し上げまして、この度のお礼に代えさせていただきます。

9. 青雲塾担当から

お忙しい中を、青雲会の青雲塾でご講演を賜り、心から御礼申し上げます。おかげでGPS（全地球測位システム）が正確な位置とともに正確な時刻を教えてくれることなど、日常生活と結びついたものとして宇宙政策を考えることもでき、また法律や体制・予算・基本政策をわかりやすくご説明いただいたことで、参加者の小林秀豪氏<24期>からは「他では聞けない大変興味深いお話で、面白く、目からうろこが落ちた」との感想をいただきました。



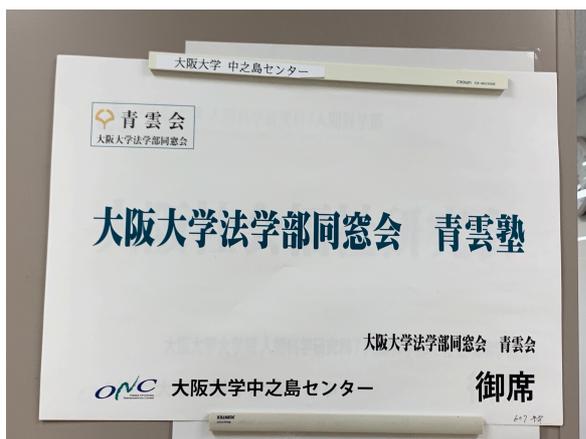
①冒頭で自己紹介される渡邊先生



②「宇宙政策」研究の最新の成果に耳を傾ける



③茶話会 全景



④青雲塾 案内板